

アジア経済マンスリー(2012年1月)

～金融市場の混乱を経て、わが国とアジア新興国との関係を考える～

発表日：2012年1月31日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 西濱 徹(03-5221-4522)

<各国経済の現状判断>

	方向性	コメント
中国		金融引き締めなどの影響は残るものの、個人消費は底堅い。不動産市況高騰による投資抑制策は景気の重石であるが、インフレ率の低下により金融緩和に動いており、今後も緩やかな景気拡大基調は続くことが見込まれる。
インド		インフレ率は依然高水準だが、個人消費は底堅い。金融当局は金融政策の軸足を物価抑制から経済成長にシフトさせているが、財政余力が大きくないことから、物価と経済成長を睨んだ難しい政策対応が続くであろう。
韓国		先進国の景気減速による輸出や生産への悪影響が懸念される。インフレ率に低下の兆しは出ているが、金融市場の混乱による悪影響も懸念され、内・外需ともに厳しい状況にある。
台湾		先進国の景気減速により輸出への下押し圧力が高まり、生産も頭打ちしている。タイの洪水による代替供給や底堅い雇用による内需の下支えはあるが、先行きは減速圧力が高まるであろう。
香港		中国本土からの資金流入は景気を下支えしているが、世界経済の減速や金融市場の混乱は先行きの雇用に悪影響を与えると懸念される。今後の景気を巡っては中国本土政府の政策に左右される展開が続くであろう。
シンガポール		世界経済の減速による悪影響を受けやすいものの、足下では堅調な雇用を背景に内需は底堅い。アジア域内での貿易拡大は外需を下支えしているが、金融市場の混乱による影響は今後内需の下押し要因になると見込まれる。
マレーシア		輸出依存度が高く、世界経済の減速による影響を受け易いが、雇用改善などが内需を下支えしている。今年も政府はインフラ投資による景気対策を継続しているが、タイ洪水による部材不足は一時的なリスク要因になろう。
タイ		乾季入りしたことで洪水被害は最悪期を脱しており、工業団地の復旧による景気の押し上げが期待される。ただし、政府の復興事業は遅れ、景気の足かせになる可能性もあり、景気の本格回復には時間を要する懸念もある。
インドネシア		インフレ率は低下して金融緩和の余地は拡大しているが、内需の堅調を背景に依然景気は底堅い。政府はインフラ投資の拡充による景気刺激を図っており、先行きも景気は比較的堅調な推移が見込まれる。
フィリピン		世界経済の減速にも拘らず海外労働者の送金は底堅く、インフレ率のピークアウトなども内需を下支えしている。しかし、足下の輸出は大幅に減速しており、先行きの景気の重石になることが懸念される。
ベトナム		インフレ率はピークアウトしているが、世界経済の減速による景気への悪影響は懸念される。金融当局はさらなる物価抑制を進めるべく金融引き締めを続けており、当面は景気の頭打ちが続くであろう。

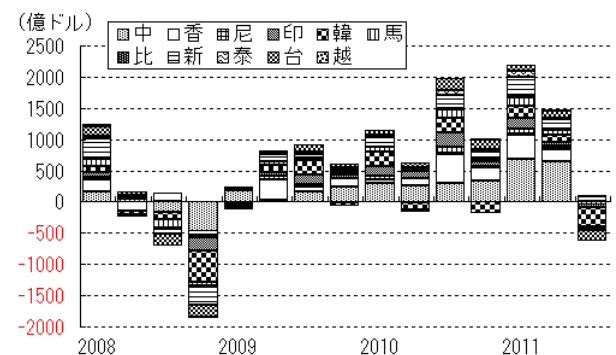
※方向性は、経済の見通しや政治及び政策の動向を総合的に勘案して判断した、前後1～2ヶ月のモメンタムを示しています。

《海外資金の動向が不透明な中、アジアにおける邦銀の存在感が高まる兆し》

- 昨夏以降の欧州債務問題の深刻化による国際金融市場の混乱により、投資家のリスク許容度低下に伴い海外資金の流出圧力が高まり、各国の株価や為替は急激な調整を余儀なくされた。さらに、世界経済の減速による輸出低迷が景気に悪影響を与えると考えられたほか、海外資金の流出はアジア新興国の内需にも減速感を高める要因となった。しかし、昨年末以降は海外資金流出による過剰流動性の緩和やベース効果などでインフレ率の頭打ち感が高まってきたことから、一部で利下げに動く国が出るなど、金融政策の軸足を物価抑制から経済成長重視にシフトさせる動きが出ている。

- 足下では、景気減速懸念が高まったことでインフレ圧力は一段と後退している。また、先進諸国においては財政問題から、歳出拡大による景気刺激策は打ち出しにくい環境にあるものの、多くのアジア新興国では公

外資系金融機関のアジア向け与信の増減



(出所) BIS より第一生命経済研究所作成

的債務による財政的な負荷は比較的低水準に留まっており、財政政策によって景気刺激を打ち出す余力も小さくない。実際、アジア新興国においてはインフラ投資など公共投資の拡大によって景気の下支えを計っている国は少なくなく、世界経済の減速による景気下押し懸念は残るものの、底堅い景気が期待されている。

- アジア新興国から大量の資金流出はあったものの、足下では国際金融市場が小康状態を取り戻していることから、海外資金に回帰の動きも出てきている。年明け以降のアジア新興国の株式や為替相場は底堅く、これによる景気への悪影響も一服しつつある。しかし、先行きも欧州債務問題が海外資金の動向を左右すると予想されるなど不透明は強く、仮に欧州債務問題が深刻化する事態となれば、リーマン・ショック直後のように大量の資金が流出する可能性は排除出来ないであろう。7-9月期にかけて欧州系金融機関の一部でアジア向け与信を縮小させる動きがみられたものの、一方で邦銀では与信を拡大させており、これがアジアの金融市場における悪影響を緩衝する役割を果たしている。現状もこうした動きは続いており、アジア通貨危機以降に低下していたアジア新興国における邦銀の存在感が再び高まることも期待されよう。

《アジア新興国における金融機能の拡充支援は、アジアの需要取り込みにおいても重要となろう》

- アジア新興国は経常黒字を抱える国は多いものの、金融市場が未成熟であることから、国内の貯蓄を投資に循環させる金融仲介機能は充実しておらず、これまでも海外の金融機関などによる資金流入に多くを依存してきた。アジア通貨危機後は欧州系金融機関のアジア新興国への進出が活発化し、これらの与信拡大が近年の経済成長を促してきた。しかし、今後しばらくはこうした動きが停滞する可能性もあり、邦銀を中心に欧州問題などによるリスクが限られる金融機関がこうした役割を担っていく可能性が高まると期待されよう。
- 日本国内においてはアジア新興国の需要を取り込むことで経済成長を目指すという議論が活発化しており、近年はEPAやFTAなどを通じて経済関係の強化を図ってきた。こうした取り組みを通じてアジア新興国市場へのアクセス改善を図ることは大企業のみならず、中小企業においてもアジア進出を後押ししてきた。今後、アジア新興国において邦銀による金融サポートが向上することは、こうした地域での円滑な事業展開を促すことに繋がり、日本企業のアジア進出を一段と活発化させることで、日本経済とアジアとの連携をより強めることに資するものになるだろう。
- 一方、金融市場の混乱が懸念される状況下においては、アジア各国にとってはかつて体験した「危機的状況」に備えるニーズは高い。既に日本はASEAN諸国や韓国、インドなどと外貨資金の融通枠拡大などの取り組みを進めているが、これによるマクロ的な金融市場の安定化策のみならず、金融機関ごとの連携強化はこれまで課題とされてきたアジア新興国内における金融仲介機能の強化にも繋がろう。アジア市場の取り込みを巡って、わが国が金融機能において緊密に連携することは、アジア新興国における裾野の広い需要取り込みに繋がると期待される。今回の一連の金融市場の混乱の中、わが国がアジア新興国に対して果たし得る役割は決して限られたものではない。

以 上

＜中国主要経済指標＞

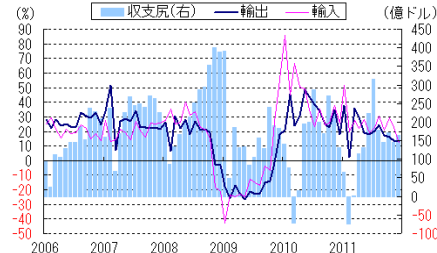
- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+8.9%と 10 四半期ぶりに 9%を下回った。前期比も+2.0%と前期（同+2.3%）から減速しており、金融引き締めなどによる固定資本投資の抑制が景気を下押しした。2011 年通年の成長率も前年比+9.2%と一ケタに留まった。
- 12 月の輸出額は前年比+13.3%と前月（同+13.8%）から減速した。輸入額も前年比+12.1%と前月（同+22.6%）から減速し、先行きの輸出低迷を見込んだ部材・原材料の輸入縮小が影響した。結果、貿易収支は+165.20 億ドルと前月（+145.28 億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 CH-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-2 貿易動向



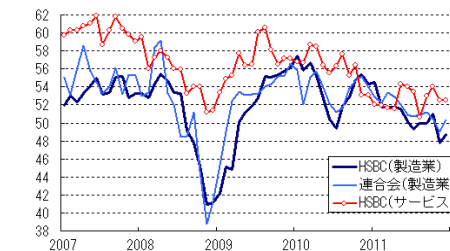
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-3 固定資産投資



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-4 製造業・サービス業 PMI



(出所) 中国物流購買連合会、Markit

図 CH-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

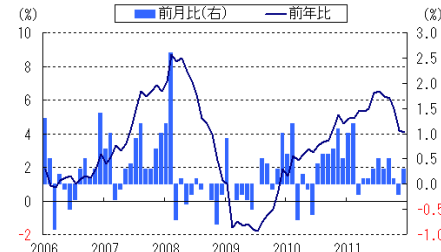
図 CH-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

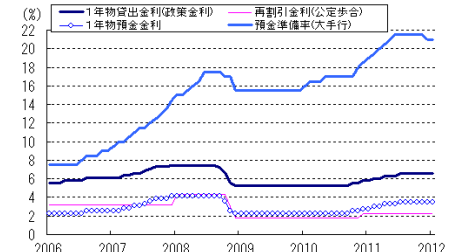
- 12 月の消費者物価は前年比+4.1%と前月（同+4.2%）から減速した。生鮮品や魚介類などの価格上昇により前月比は+0.3%上昇したが、これは主に季節要因であることを鑑みれば、物価は落ち着きを取り戻しつつある。今後もインフレ率の低下により金融緩和余地は拡大すると見込まれるものの、不動産価格の高止まりが懸念されるため、金融当局は金融緩和手段として預金準備率の引き下げに留めると予想される。

図 CH-7 消費者物価



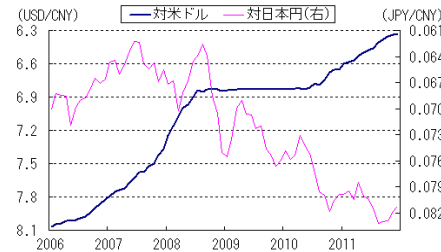
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-8 金融政策



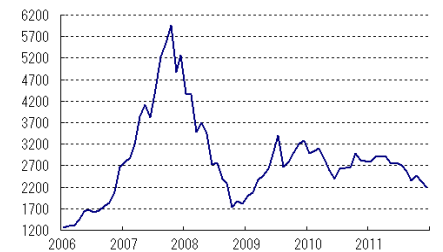
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-9 為替相場(月次)



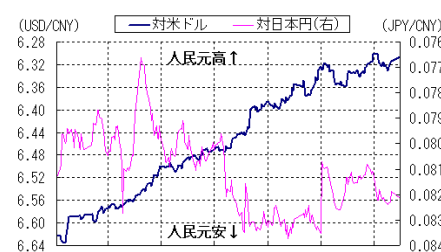
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-10 株式相場(月次)



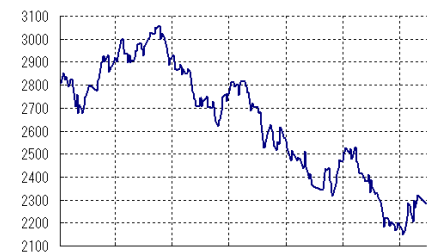
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-12 株式相場(日次)

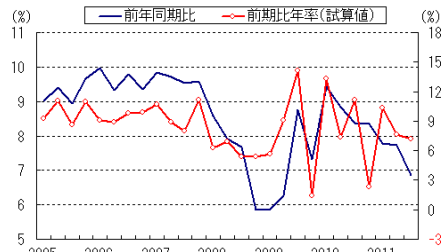


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インド主要経済指標＞

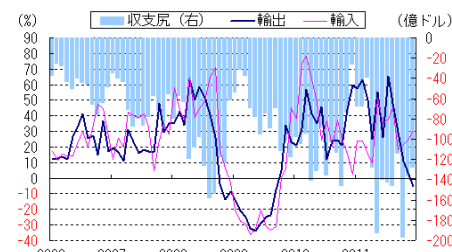
- 12月の輸出額は前年比▲5.3%と2年3ヶ月ぶりにマイナスに転じたが、前月比は2ヶ月連続で増加。一方の輸入額は前年比+30.4%と前月（同+24.5%）から加速し、前月比も2ヶ月連続で増加している。結果、貿易収支は▲128.00億ドルと前月（▲136.01億ドル）から赤字幅は縮小した。

図 IN-1 実質 GDP 成長率



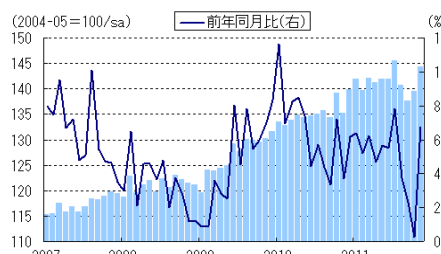
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-2 貿易動向



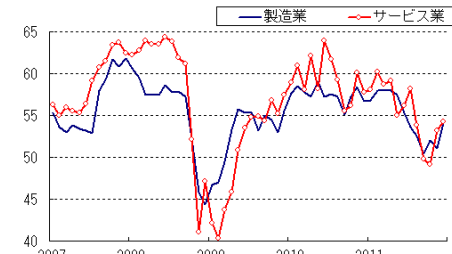
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-3 インフラ動向



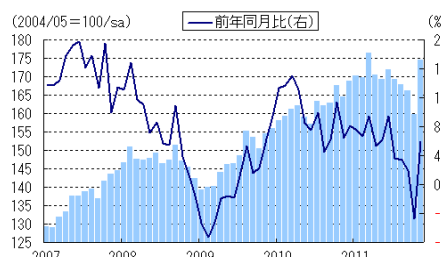
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-4 製造業・サービス業 PMI



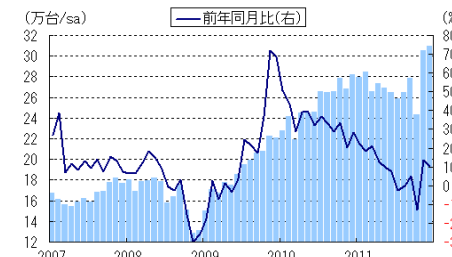
（出所）Markit より第一生命経済研究所作成

図 IN-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

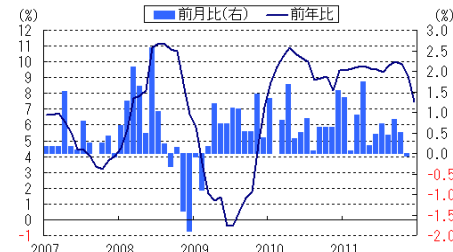
図 IN-6 四輪車国内販売台数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

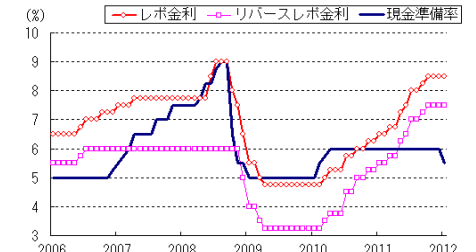
- 12月の卸売物価は前年比+7.47%と2年ぶりの低水準となり、食料品価格の低下により前月比も+0.00%と落ち着いている。コア物価の高止まりやルピー安による輸入物価の上昇リスクは燃えているものの、物価上昇圧力は徐々に後退の兆しが高まっている。
- 24日、インド準備銀行は定例の金融政策委員会において、現金準備率を3年ぶりに引き下げる決定を行った。物価上昇リスクが燃えていることから、利下げ実施は時期尚早と判断したものの、足下の景気減速に対応して金融政策のスタンスを景気刺激重視にシフトさせた。金融緩和に舵を切ったことで、市場では利下げのタイミングに注目が高まっている。

図 IN-7 卸売物価



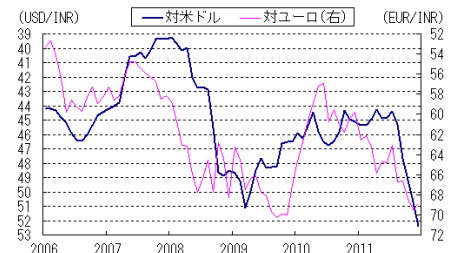
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-9 為替相場（月次）



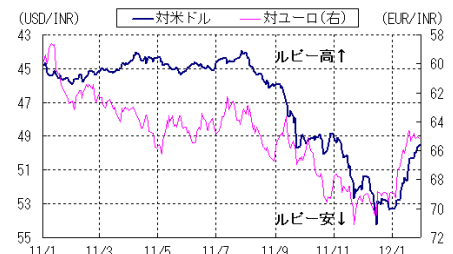
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-12 株式相場（日次）

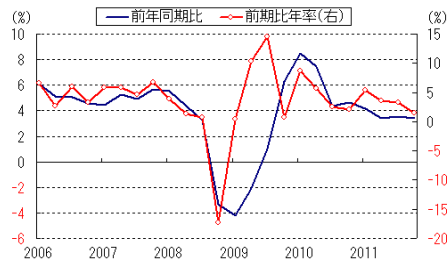


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜韓国主要経済指標＞

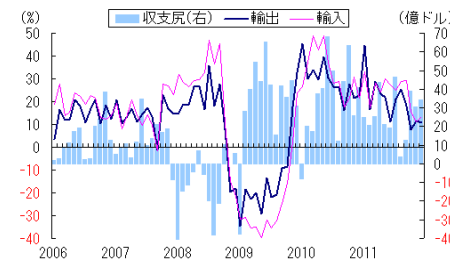
- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+3.4%と前期（同+3.5%）から減速した。前期比年率も+1.4%と前期（同+3.3%）から減速し、内・外需の低迷による景気の減速感が顕著になった。先行きは在庫調整圧力が高まると見込まれ、しばらく減速傾向が続こう。
- 12 月の輸出額は前年比+10.8%と前月（同+11.6%）から減速したが、前月比は3ヶ月連続で増加し、足下のウォン安を背景に底堅さが続いている。輸入額は前年比+13.6%と前月（同+11.2%）から加速し、前月比も増加しており、単月ベースで過去最高となった。結果、貿易収支は+34.05 億ドルと前月（+30.47 億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 KR-1 実質 GDP 成長率



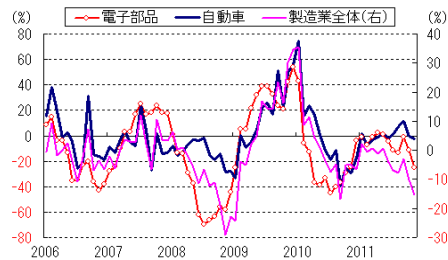
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-2 貿易動向



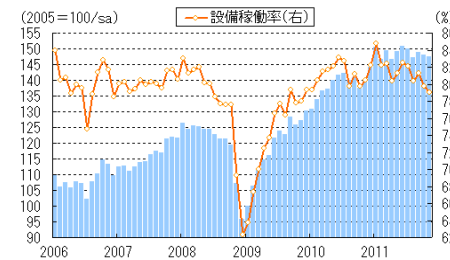
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-3 出荷・在庫バランス



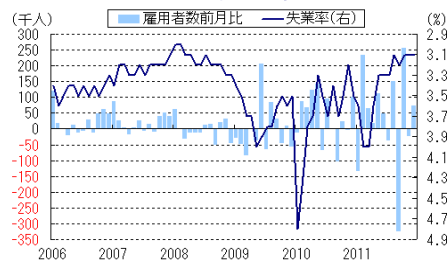
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-4 鉱工業生産



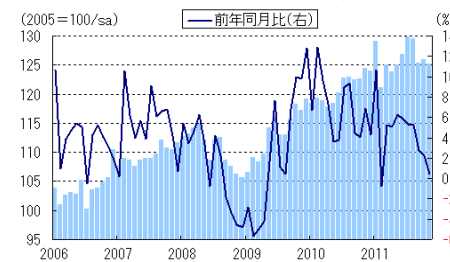
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-5 雇用環境



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

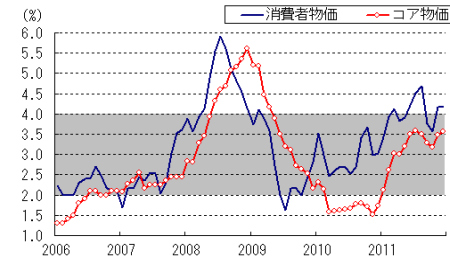
図 KR-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 12 月の消費者物価は前年比+4.16%と前月（同+4.17%）から減速したが、2ヶ月連続でインフレ目標を上回った。エネルギー価格の上昇は一段落しているが、コア物価は前年比+3.19%に加速し、ウォン安による輸入物価の上昇が新たな物価上昇圧力となっている。
- 13 日、韓国銀行は金融政策委員会において7回連続で政策金利を 3.25%に据え置いた。依然インフレ圧力が熾っているため、現行の引き締め姿勢を維持した。しかし、先行きについては欧州債務問題による景気の不透明感に懸念を示しており、インフレ率の低下や不動産価格の上昇一服が鮮明になれば、金融緩和に踏み切る可能性が高まっている。

図 KR-7 消費者物価（前年比）



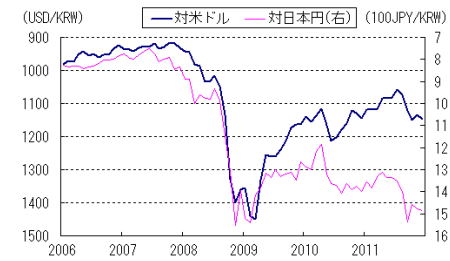
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-12 株式相場（日次）

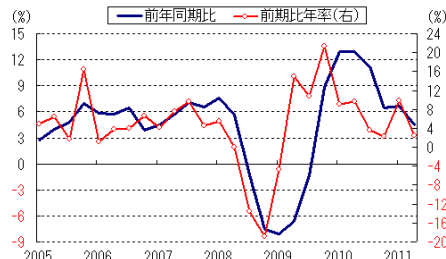


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜台湾主要経済指標＞

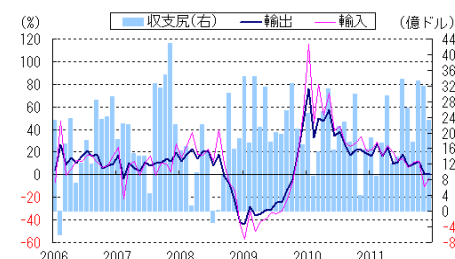
➤ 12月の輸出額は前年比+0.6%と前月（同+1.2%）から減速したが、前月比は3ヶ月ぶりに増加し、タイの洪水に伴う代替需要の増加が輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年比▲2.7%と2ヶ月連続でマイナスとなったが、前月比は3ヶ月ぶりに増加しており、堅調な部材需要が輸入を支えている。結果、貿易収支は+23.18億ドルと前月（+32.03億ドル）から黒字幅が縮小している。

図 TW-1 実質 GDP 成長率



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-2 貿易動向



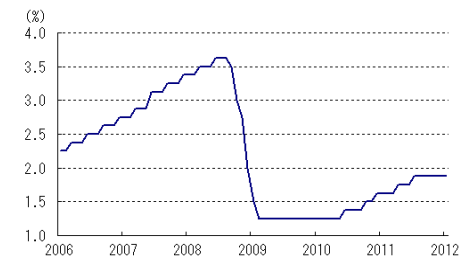
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-8 金融政策



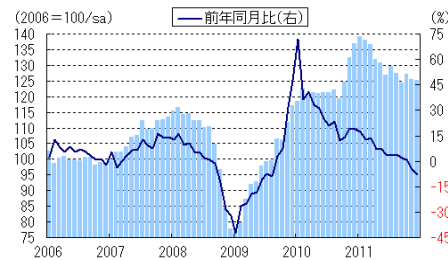
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-3 出荷・在庫バランス（電子部品）



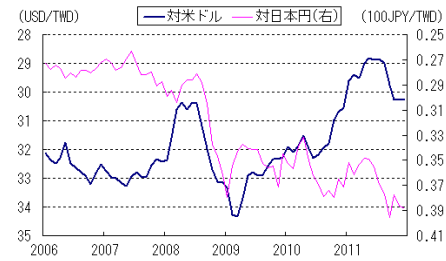
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-4 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-9 為替相場（月次）



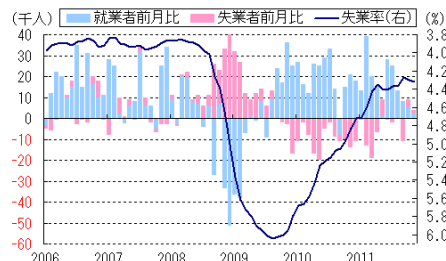
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-10 株式相場（月次）



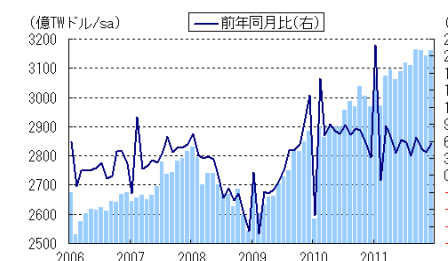
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-5 雇用環境



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-12 株式相場（日次）

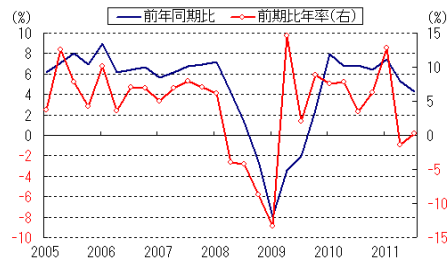


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜香港主要経済指標＞

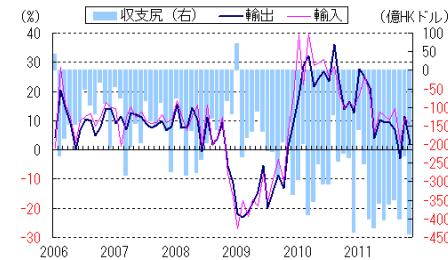
➤ 11月の輸出額は前年比+2.0%と前月（同+11.5%）から減速し、前月比も減少した。一方の輸入額も前年比+8.8%と前月（同+10.9%）から減速したものの、前月比はわずかに増加している。結果、貿易収支は▲441.05億HKドルと前月（▲231.38億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図 HK-1 実質 GDP 成長率



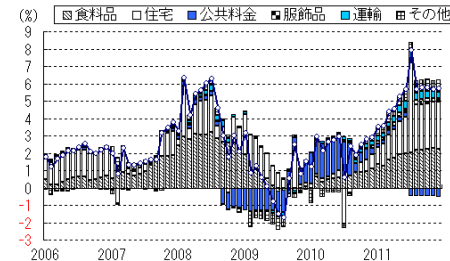
（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-2 貿易動向



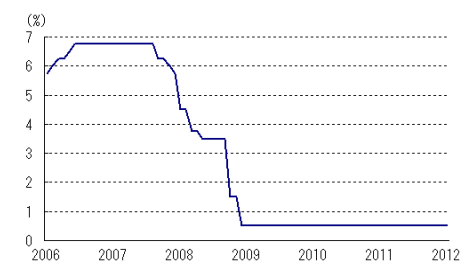
（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-7 消費者物価（前年比）



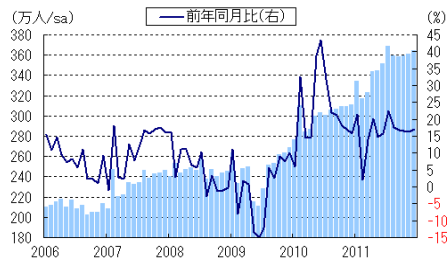
（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-8 金融政策



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-3 来訪者数



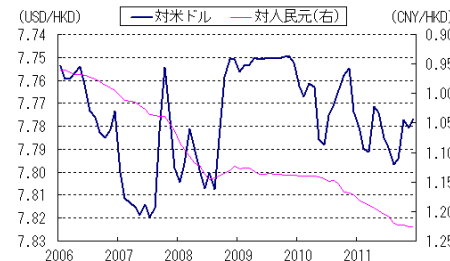
（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-4 小売売上高



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-9 為替相場（月次）



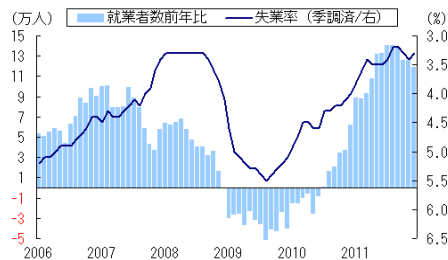
（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-10 株式相場（月次）



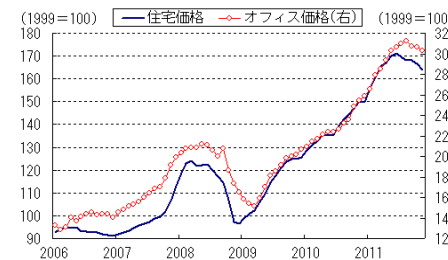
（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-5 雇用環境



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-6 不動産価格



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-11 為替相場（日次）



（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

図 HK-12 株式相場（日次）

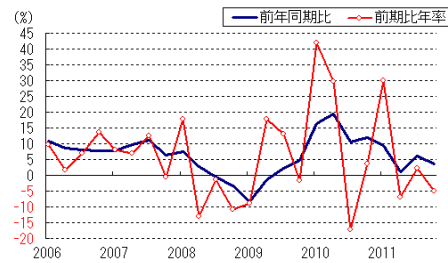


（出所）CEICより第一生命経済研究所作成

＜シンガポール主要経済指標＞

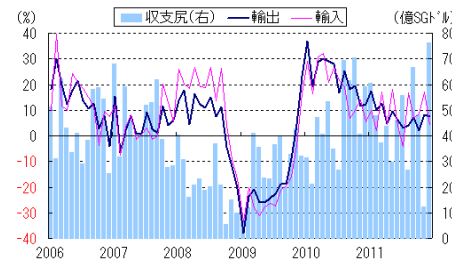
- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+3.6%と前期（同+6.1%）から減速し、前期比年率も▲4.9%と前期（同+1.9%）から2四半期ぶりにマイナスに転じた。概ねすべての産業で減速感が顕著になっており、世界的な景気減速は様々な形で悪影響を及ぼしている。
- 12 月の輸出額は前年比+7.5%と前月（同+8.5%）から減速したが、前月比は+5.0%と5ヶ月連続で増加している。一方の輸入額は前年比+4.0%と前月（同+17.0%）から減速し、前月比も▲13.0%と大きく減少した。結果、貿易収支は+76.13 億SGドルと前月（+12.36 億SGドル）から黒字幅が拡大した。

図 SG-1 実質 GDP 成長率



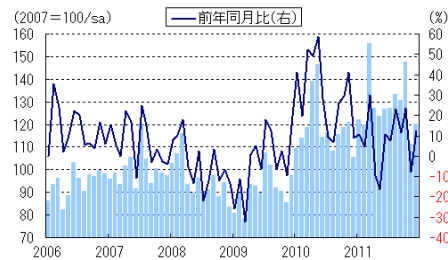
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-2 貿易動向



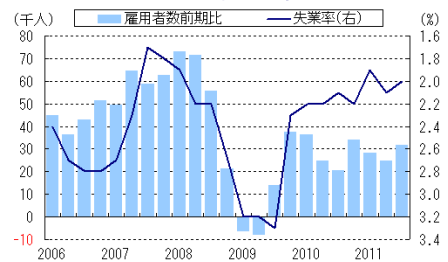
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-3 鉱工業生産



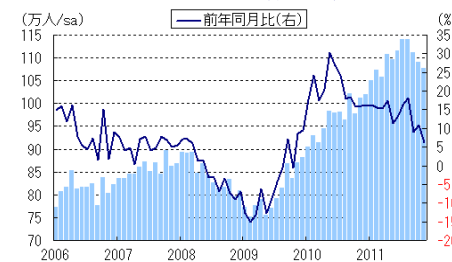
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-5 雇用環境



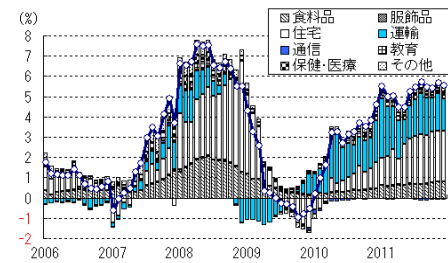
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-6 来訪者数



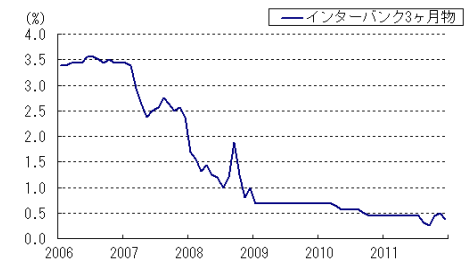
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-8 市場金利



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-12 株式相場（日次）

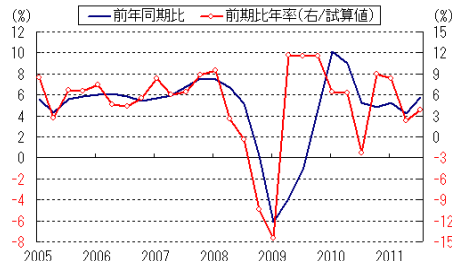


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜マレーシア主要経済指標＞

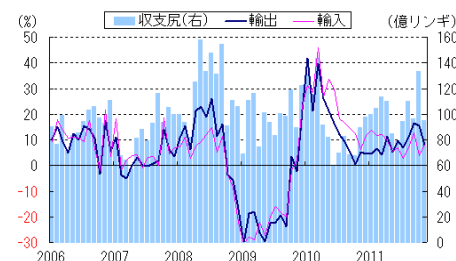
➤ 11月の輸出額は前年比+8.0%と前月（同+15.4%）から減速し、前月比も▲8.8%減少している。一方の輸入額は前年比+8.4%と前月（同+4.0%）から加速したものの、前月比は▲5.4%と前月（同▲4.4%）に続いて減少するなど景気減速を反映している。結果、貿易収支は+94.86億リンギと前月（+133.01億リンギ）から黒字幅が縮小した。

図 MY-1 実質 GDP 成長率



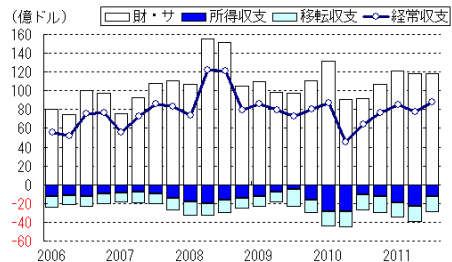
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-2 貿易動向



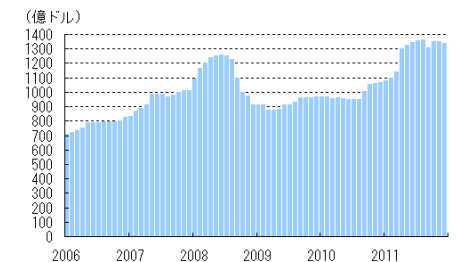
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-3 経常収支



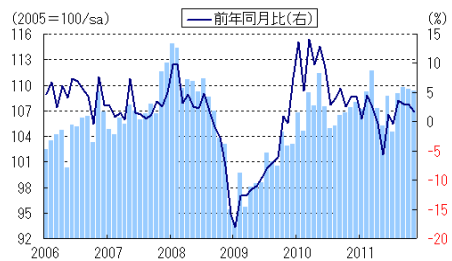
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-4 外貨準備高



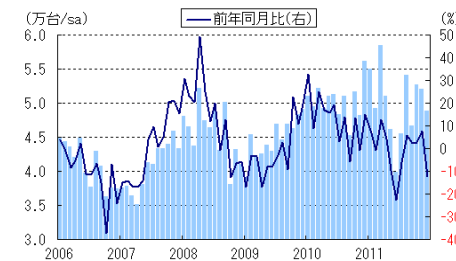
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-5 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

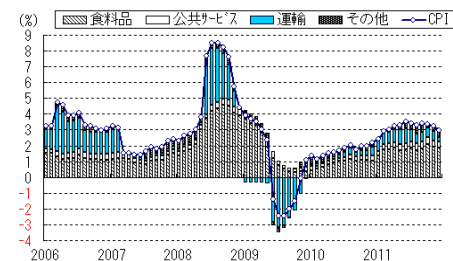
図 MY-6 自動車販売



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

➤ 12月の消費者物価は前年同月比+3.0%となり、前月（同+3.3%）から減速した。前月比も+0.10%と前月と同じ伸びに留まり、食料品価格の上昇圧力は熾っているものの、景気減速を反映して全体的に物価上昇圧力は後退している。昨年後半のリンギ安が輸入物価を上昇させるリスクはあるが、足下では為替相場は落ち着きを取り戻しつつある。

図 MY-7 消費者物価（前年比）



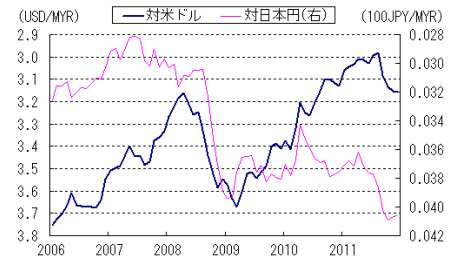
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-12 株式相場（日次）

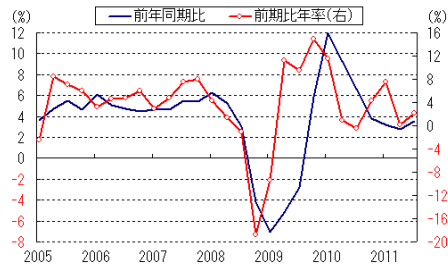


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

<タイ主要経済指標>

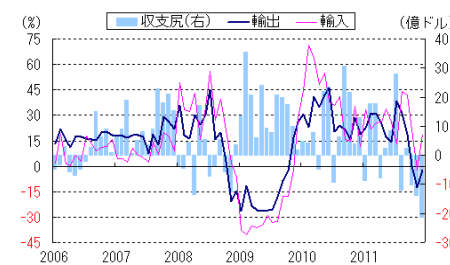
- 12月の輸出額は前年比▲2.0%となり、前月（同▲12.4%）からマイナス幅が縮小した。大洪水により多くの工業団地が浸水被害を受けて生産中止に追い込まれたため、9月以降の輸出は大きく落ち込んだが、足下では復旧・復興が進み、一部で操業再開の動きもみられる。一方、輸入額も前年比+19.1%と2ヶ月ぶりにプラスとなった。工場復旧に伴う生産設備需要の拡大で輸入は拡大し、前月比は1割を上回る拡大となった。結果、貿易収支は▲21.30億ドルと前月（▲13.73億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 TH-1 実質 GDP 成長率



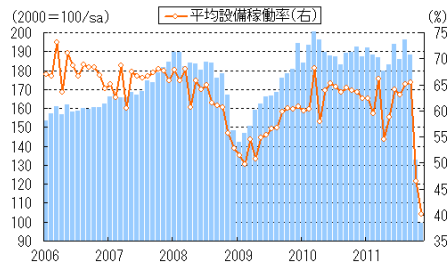
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-2 貿易動向



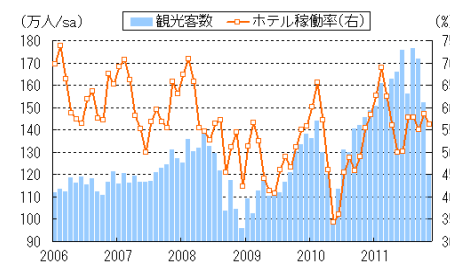
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-3 鉱工業生産と設備稼働率



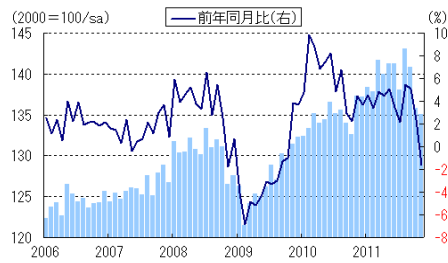
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-4 来訪者数



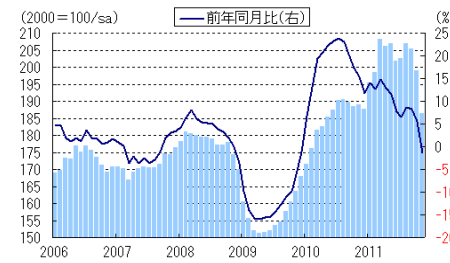
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-5 民間消費



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

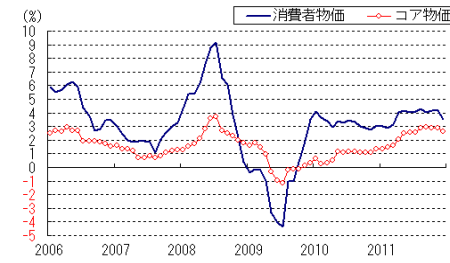
図 TH-6 民間投資



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

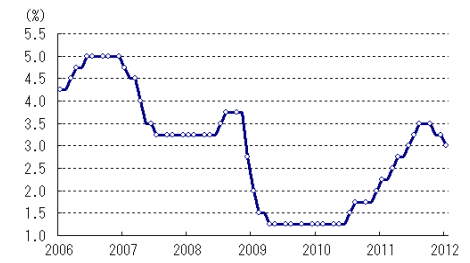
- 12月の消費者物価は前年比+3.53%と前月（同+4.19%）から減速した。大洪水による物価上昇懸念にも拘らず、食料品やエネルギー価格の下落を背景に前月比も▲0.48%と3ヶ月ぶりに下落。コア物価も前年比+2.66%と前月（同+2.90%）から減速したが、前月比は+0.11%と前月（同+0.03%）からわずかに加速した。
- 25日、タイ銀行は金融政策委員会において2回連続で政策金利を25bp引き下げ、3.00%とした。世界経済の減速や洪水による悪影響が想定以上と判断し、追加的な景気刺激が必要と判断した。政府の復興対策による物価上昇リスクはあるものの、対応は遅れているため、追加利下げが必要になる可能性もあろう。

図 TH-7 消費者物価（前年比）



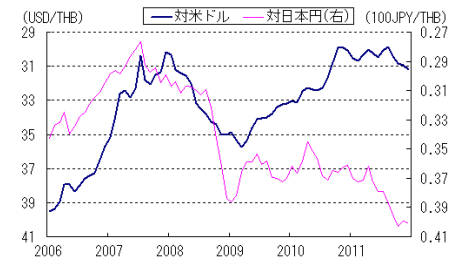
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-9 為替相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インドネシア主要経済指標＞

- 11月の輸出額は前年比+8.3%と前月（同+17.8%）から減速したものの、前月比は増加した。一方の輸入額も前年比+18.4%と前月（同+28.2%）から減速したが、内需の堅調を反映して前月比は増加基調が続いた。結果、貿易収支は+15.26億ドルと前月（+14.24億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 ID-1 実質 GDP 成長率



図 ID-2 貿易動向

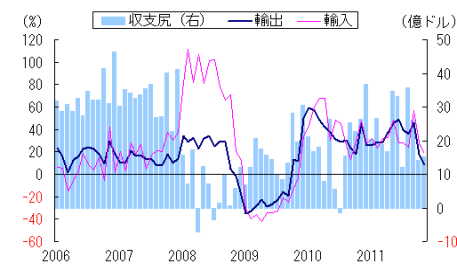


図 ID-3 経常収支

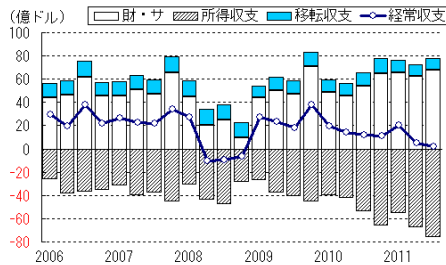


図 ID-4 外貨準備高

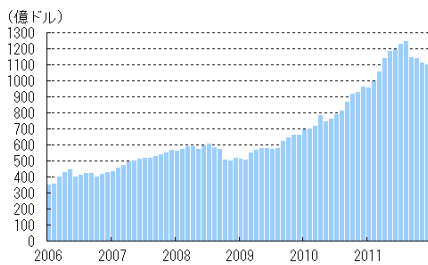


図 ID-5 鉱工業生産

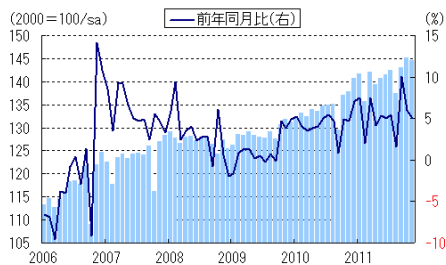
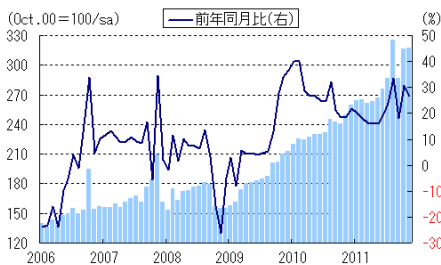


図 ID-6 小売売上高



- 12月の消費者物価は前年比+3.79%と前月（同+4.15%）から減速したが、食料品やエネルギー価格の上昇により前月比は+0.57%と前月（同+0.34%）から加速した。景気の堅調を背景にコア物価も前月比+0.31%上昇したものの、前年比は+4.34%に減速している。
- 12日、インドネシア銀行は金融政策委員会で政策金利であるB I レートを2回連続で6.00%に据え置いた。足下のインフレ率は目標（3.5～5.5%）に収まり、物価上昇圧力は後退している。当局は昨年、欧州債務問題による悪影響緩和のために2回の利下げを実施したが、足下ではルピア安による輸入物価の上昇リスクが高まっており、追加緩和の必要性は低いと判断した。

図 ID-7 消費者物価（前年比）

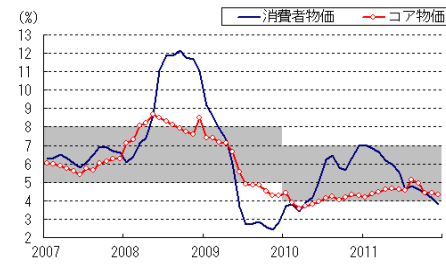


図 ID-8 金融政策

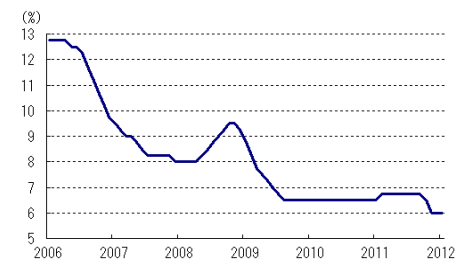


図 ID-9 為替相場（月次）

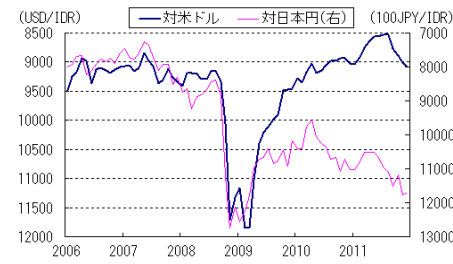


図 ID-10 株式相場（月次）



図 ID-11 為替相場（日次）



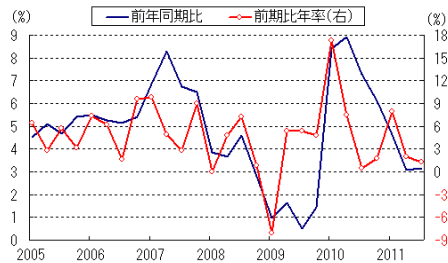
図 ID-12 株式相場（日次）



＜フィリピン主要経済指標＞

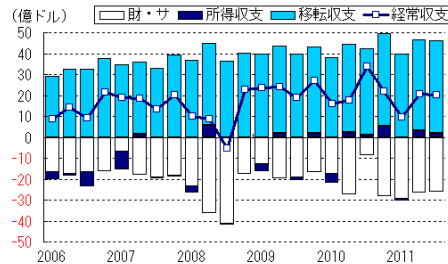
- 11 月の輸出額は前年比▲19.4%と前月（同▲14.6%）からマイナス幅が拡大、7ヶ月連続で前年割れとなり、前月比も減少した。一方の輸入額は前年比+0.6%と前月（同+2.3%）から減速したもの、前月比は増加した。結果、貿易収支は▲16.43 億ドルと前月（▲9.32 億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 PH-1 実質 GDP 成長率



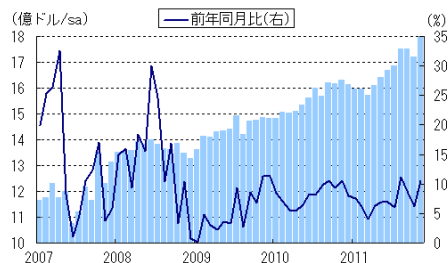
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-3 経常収支



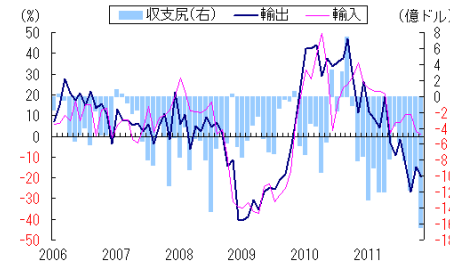
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-5 海外労働者送金



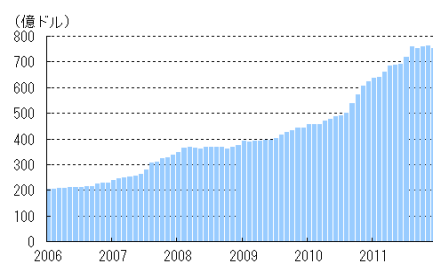
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-2 貿易動向



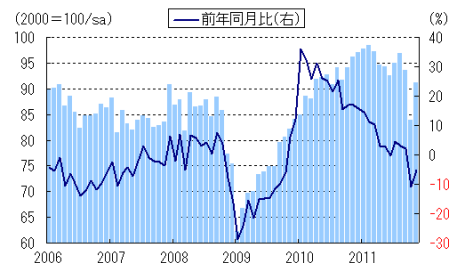
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-4 外貨準備高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

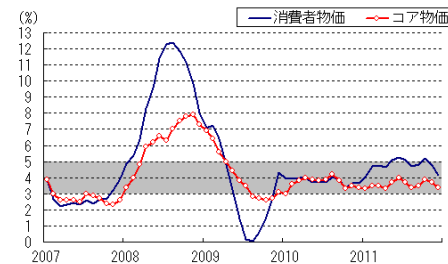
図 PH-6 鉱工業生産



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

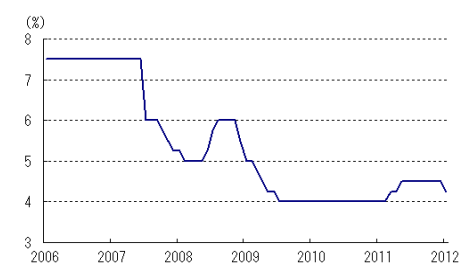
- 12 月の消費者物価は前年比+4.2%と前月（同+4.8%）から減速した。食料品やエネルギー価格の下落を背景に前月比も▲0.16%と 14 ヶ月ぶりに下落し、物価上昇圧力に一服感が出ている。コア物価も前年比+3.4%と前月（同+3.7%）から減速。金融市場の混乱による海外資金の流出で過剰流動性が後退していることも物価の安定に繋がっている。
- 19 日、フィリピン中央銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利である翌日物借入金利と翌日物貸付金利を 2 年半ぶりに 25bp 引き下げ、それぞれ 4.25%、6.25%とする決定を行った。インフレ圧力が後退する中、堅調な労働者送金を背景に内需は底堅いものの、世界経済の減速による悪影響は避けられず、当局は利下げによる景気刺激に舵を切った。

図 PH-7 消費者物価（前年比）



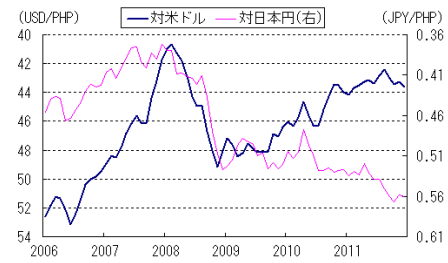
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-9 為替相場（月次）



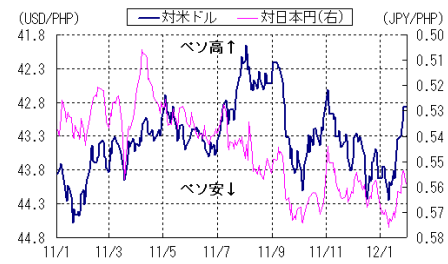
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

＜ベトナム主要経済指標＞

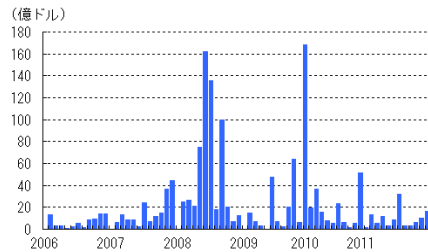
- 10-12 月期の実質GDP成長率は前年比+6.17%と前期（同+6.10%）から加速した。世界経済の減速による輸出低迷で第2次産業の減速感が高まったものの、第1次産業の堅調が景気を下支えした。なお、通年の経済成長率は+5.9%と政府目標（6%）を下回った。
- 12 月の輸出額は前年同月比+18.7%と前月（同+33.3%）から減速したが、前月比は増加基調が続いた。一方の輸入額も前年同月比+9.2%と前月（同+18.6%）から減速したが、底堅い内需を反映して前月比は増加した。結果、貿易収支は▲7.00 億ドルと前月（▲5.67 億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 VN-1 実質 GDP 成長率



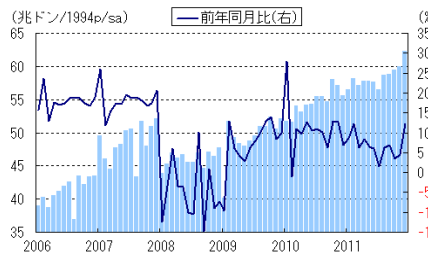
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-3 対内直接投資認可額



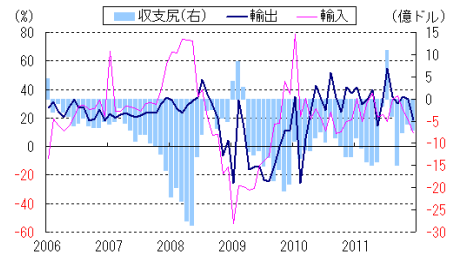
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-5 鉱工業生産



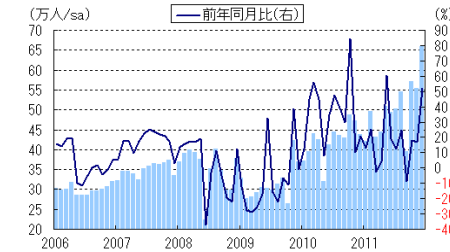
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-2 貿易動向



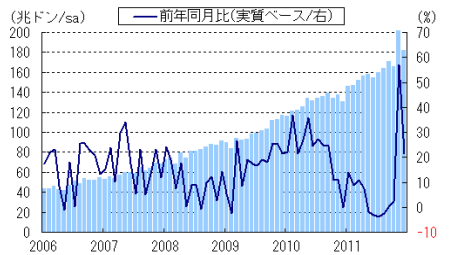
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-4 来訪者数



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

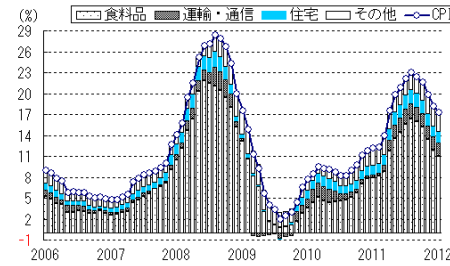
図 VN-6 小売売上高



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

- 1 月の消費者物価は前年比+17.3%と5ヶ月連続で減速し、9ヶ月ぶりの水準に低下した。ただし、食料品やエネルギーのみならずドン安による輸入物価の上昇もあり、前月比は+1.00%と前月（同+0.53%）から加速し、物価上昇圧力は燦っている。ベース効果などにより今後もインフレ率は低下しようが、引き続き物価抑制を重視した政策運営が必要になろう。

図 VN-7 消費者物価（前年比）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-9 為替相場（月次）



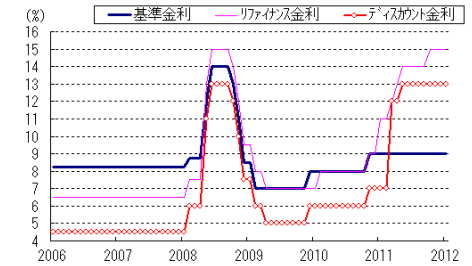
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-11 為替相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-8 金融政策



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-10 株式相場（月次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-12 株式相場（日次）



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成